

Publication number: 54-21859

Date of Publication: 08.02.1979

Application number: 48-34801

Date of Filing: 03.22.1973

Applicant: Noda Gohan K.K.

Title of the Device: Connecting structure for a plasterboard

Abstract:

1) Purpose: To provide a plasterboard which has a good construction state, have joints hard to spot, and has a steric surface.

2) Constitution:

Core layers 1 of a plasterboard having cutout 4 and concave groove 5 which is parallel to cutout 4, are connected each other by being covered with pasteboards 2 and 3 such that concave groove a which is formed by connecting cutouts 4 one another is flush with concave groove 5.

⑩日本国特許庁(JP)

⑪実用新案出願公告

⑫ 実用新案公報 (Y2) 昭54-21859

⑬Int. Cl.²

識別記号

⑭日本分類

庁内整理番号

⑮公告

昭和54年(1979)8月2日

E 04 F 13 / 14

86 (6) B 323

6828 - 2 E

(全2頁)

1

2

⑯石膏ボードの接続構造

⑰実 願 昭48-34801

⑱出 願 昭48(1973)3月22日

公 開 昭49-136015

⑲昭49(1974)11月22日

⑳考 案 者 望月明

清水市上清水町11の21

㉑出 願 人 野田合板株式会社

東京都中央区日本橋本町3の1

㉒代 理 人 弁理士 羽生栄吉

㉓引用文献

実 開 昭49-12729

㉔実用新案登録請求の範囲

木口面の切欠き4と該切欠き4に平行する凹状溝5とを有する石膏の芯層1が、ボード用厚紙2、3で芯層1の形に沿って被覆された石膏ボード単位体を接続した構造であり、

隣接する石膏ボード単位体の木口面の切欠き4が互いにつながって形成される一つの凹状溝a前記凹状溝5が平坦面となるように被覆されている、ことを特徴とする石膏ボードの接続構造。

考案の詳細な説明

本考案は天井板、壁板などに用いる石膏ボードの接続構造に関するもので、その目的とするところは、施工状態がよくて継目が目立たない、立体的な表面を有する石膏ボードを構成する点に存する。

従来この種石膏ボードは第1図のように表裏にボード原紙2'、3'を、芯に石膏1'をサンドイッチした平面板である。しかし石膏1'は脆いため、固定釘などを打つために前記ボード表面にV溝4'が切削形成すると、ボード原紙2'が除去されてしまうので折れ易くなる。

また切削した端部よりボード原紙2'が剥離して芯の石膏1'が崩れ、ボードが破損する欠点があ

つた。

またこのような石膏ボードを平板のまま用いるとその継目にパテ5'を塗る必要があるため、厚さむらが生じ継目が目立ち、見苦しかった。また第3図のように、木口をテーパ状にしたものも用いられているが、施工後パテ6'などで継目を隠すことが必要である。しかしこのようなものでは工程が複雑で施工時間が長くなる欠点がある。(またテーパ状部ではパテなどの厚さむらが目立ち易い。)

本考案は以上のような従来技術の改良を企図したもので、その構成の要旨とするところは、木口面の切欠き4と、該切欠き4に平行する凹状溝5とを有する石膏の芯層1がボード用厚紙2、3で芯層1の形に沿って被覆された石膏ボード単位体を接続した構造であり、隣接する石膏ボード単位体の木口面の切欠き4が互いにつながって形成される一つの凹状溝a前記凹状溝5が平坦面となるように被覆されている、石膏ボードの接続構造に存するものである。

以下その詳細について説明する。

②芯層1の石膏、およびボード原紙2、3は従来のもをそのまま用いればよい。

石膏層1とボード原紙2、3との接着は従来のように石膏スラリーが硬化する際に接着するもので接着剤を用いず、従来と変りない。

芯層1の形状は両木口部に切欠き4を有する。そして切欠き4は左右対称で接合時両者の切欠き4で1つの凹状溝aが形成される。

溝aの断面形状は第5図イ、ロのように随時選択することができるが目地板7が嵌合できる形状であることが望ましい。

さらに切欠き4、4の間にこれらと平行して凹状溝5を凹設する。凹状溝5は石膏ボードの意匠性の向上と、凹状溝5から釘打してボードの下地材への密着性を強化するためである。切欠き4、4の深さ、巾は意匠的效果を考慮して、物理的強

3

4

度を低下することにより使用上問題が生じない範囲で決定される。

⑥ボード用原紙2, 3を芯層1の形状に沿って全表面に接着する方法は従来の方法でよい。たとえば表面ボード用原紙2を折曲した中に石膏スラリーを注入した後、裏面ボード用原紙3を表面原紙2の上に貼着して、圧延ロールで成形すればよい。

⑦施工のとき凹状溝a, 5で釘着nし、(第6図)パテで充填するか、目地板7で隠蔽する。

本考案ボードは以上のような構成を有するのでその作用効果を要約すれば次の通りである。

⑧施工時の釘着を凹状溝a, 5で行なえば釘着個所が目立たない。また凹状溝5の存在により意匠性が高い。

⑨凹状溝a, 5があつても、両面にボード原紙2, 3が切目なく全表面に接着されているため、釘打ちのとき折れや原紙の剝離を起さない。

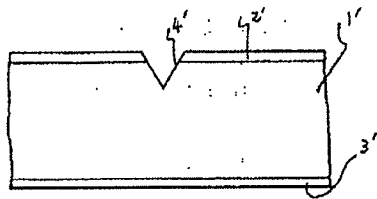
⑩釘着の際凹状溝a, 5から釘を打ち込むので、打込み距離lがボードの厚さtより小さいので打込抵抗が少なく、脆い石膏の打込みのときの破壊が少なくてすむ。

図面の簡単な説明

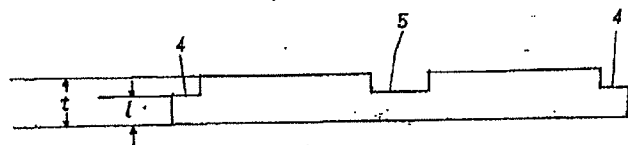
第1図、第2図、第3図は従来のボードの正面図、第4図は本考案のボードの正断面図、第5図イ、ロは凹状溝の形状例示図、第6図は目地板を接合部に嵌合した場合の正面図である。

1:石膏の芯層、2, 3:ボード原紙、4:切欠き、5:凹状溝、a:凹状溝。

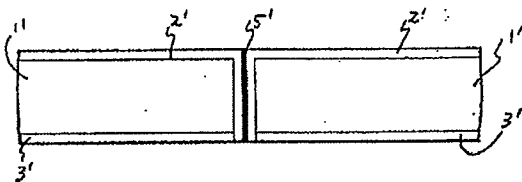
第1図



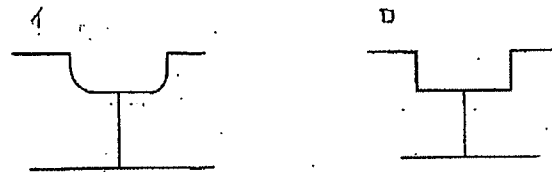
第4図



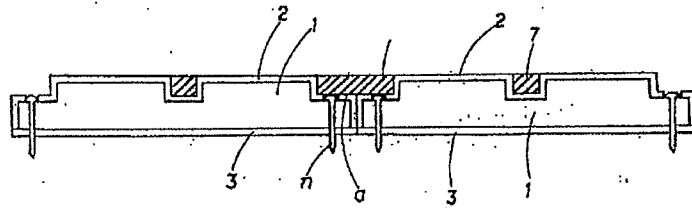
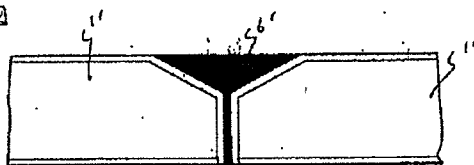
第2図



第5図



第3図



第6図